

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3393400035		
法人名	社会福祉法人 鶯園		
事業所名	グループホーム 蒜山		
所在地	岡山県真庭市蒜山上長田28-1		
自己評価作成日	令和 4 年 5 月 6 日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3393400035-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス		
所在地	岡山市北区岩井二丁目2-18		
訪問調査日	令和 4 年 5 月 24 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

今年度の品質目標「接遇の向上を目指す」を念頭においた介護に努めており、少人数の共同生活のため、家庭的な雰囲気の中でゆったり過ごしていただけている。季節の行事、行事食で今の季節を感じてもらい会話を楽しんだり昔に思いをはせたりを大切にしている。日々の食事が「美味しい」と利用者様に好評をいただいている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

コロナ禍でも介護のやりがいがいちど満ち溢れていけるように、日々が、ゆったりまったり流れながら、職員の前向きさをイキイキと出せるように管理者が導いている。家族に会いたい利用者が多く、ビニール越しの面会から地域の方のかかりまで根強く、散歩が有意義に発展している。「こんにちは」、「よい天気ですね。」、「どこに行かりようん?」と軽い挨拶から話題がエスカレートし盛り上がる。地域の方と親密な関係となり、また、逢いたいという気持ちが高まり、ストレスやフラストレーションのかけらも感じない。以前では、盛大な夏祭りや季節行事も開催され、利用者は今か今かと待ち遠しい日々を暮らしていても、日々の生活にメリハリをもって、喜んでいただくことと管理者は、職員とともに試行錯誤し、今回は新庄村の花見に全員をお連れした。利用者の目が輝き、笑みがたんまりと浮かんだそうだ。評価中も窓越し面会の如く、鶯が盛んに「ホーホケキョ」と、元気なエールを送ってくれた。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

有限会社アウルメディカルサービス

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・事業所に掲示・職員個人にカードを配布し確認できる様にしている。	理念は居室間の壁に掲示し、目が届くようにしている。職員個人に渡しているカードには、理念と共に今年度の目標を記載し、意識できやすくしている。職員同士共有できる場も設けている。	玄関に掲示し、コロナ終焉後、外部の方だけでなく一層目が届くようにしてはいたが、でしょうか。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・行事での外出・ご家族・ボランティアとの交流をしている。(コロナウイルス感染症予防対策の為、制限)	新型コロナウイルスの影響から、窓越しでの面会となっている。ボランティアをはじめとする地域の方との関りができにくいことが課題となっている。散歩中に地域の方と出会った際には、挨拶とともに、天気をはじめとする会話から、盛り上げを増している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・行事での外出・参加により地域との交流を図っている。(コロナウイルス感染予防対策の為、制限)		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・2ヶ月に1回の開催を行い、ご家族・民生委員・市職員の方々から意見を伺い、サービスの向上に活かしている。	運営推進会議は2ヶ月に1度開催し、包括支援センターや民生委員の方に参加していただいている。最近では新型コロナウイルスの影響から、会議資料を送付し、電話連絡を入れることで開催として、色々要望も投げかけられている。	書類を送付し、報告するだけでなく、個々に手渡しする分割開催や地域の警察官や消防団の方にも参加していただける関係作りも考慮してはいたが、でしょうか？
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	・運営推進会議において、状況報告・行事報告等を行っている。何かあれば連絡したり、してもらったりしている。	市町村との連携は、管理者が窓口となって行っている。役場には計画作成担当者も同行し、送付FAXを連名にすることで顔を繋げている。行政からの連絡は、直接の他、オフトークでも受けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・3ヶ月以内の会議を行い、2回全体会議において研修をしている。身体拘束をしない介護に取り組んでいる。	虐待とは別に、身体拘束に対する委員会を設け、3ヶ月に1度会議を行っている。また、年2回は全体会議を行って学びを深めている。スピーチロックをしないために、補足説明も行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・3ヶ月以内の会議を行い、2回全体会議において研修をし、虐待の防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・学ぶ機会を持ちたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・重要事項説明を行い、理解・納得をしていただいた上で承諾書をもらう様に努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・サービスに関するアンケート調査を行い、全体会議・GHミーティング・運営推進会議等で報告する。ご要望等については早急に取り組む様にしている。	年に1度、アンケートをとることで、利用者や家族からの意見を反映させやすくしている。改善意見は少ないが、挙げた意見は、適切に改善している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・GHミーティング・個々の面会で意見・提案を出してもらっている。	個々の面会では、生活や体調をはじめとする、プライベートな内容も挙がっており、より密接な関係を築く機会となっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・希望休は可能な限り要望に応じている。働きやすいよう職場環境に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・年1回の「スキルマップ」と「セルフチェックシート」・又日々の介護においてり力量の把握をし、助言を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・「真庭市グループホーム連絡会」を半年に1回開催していたが、コロナ禍の為、集まる事がなかった。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・細かい心配りをしながら、何でも言ってもらえる関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・ご家族と面会し、困り事・要望等、何でも言ってもらえる様な関係性が生まれる様に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・入所前調査において、必要な支援を見極めプランの作成をして、ご家族に確認をしてもらっている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・信頼関係が築き、お互いを深め合う様に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・ご家族・ご本人との関わりを大切にしながら、共に支え最良の支援に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・知人・馴染みのある方々との関係の継続に努めている。馴染みのある場所にもドライブで出掛けている。	お花見ドライブの他、見知った場所を訪れることで、思い出が想起することもできている。また、法人内を散歩したり、菜園を作ったことで、今の生活の場所が新たな馴染みの場所になっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・ご利用者同士の関係性を把握しながら、皆さんが楽しく生活できたり、お互いを思いやる気持ちを大事にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・今まで、その後の支援が必要な方はいない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・ご利用者一人ひとりの思いや好きな事の把握に努めている。ミーティングにおいても個別ケアの検討を行い職員間の周知をし、支援している。	一緒に生活することで、パズルや塗り絵等、利用者の方の好みを掴むことができている。発語の難しい方には、表情を見て、提案を行っている。体が動かしにくくなっているな…と、ヒヤリとする方には、体操を促すこともあった。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・入所前の聴き取りやライフスタイルストーリーの活用により把握を行っている。日々の暮らしの中での会話からも生活歴の情報を得ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・介護経過記録・日常チェック表の記録により生活状態や体調の把握を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・半年ごとのケア会議・モニタリングを行っている。ご家族からの要望や個別ケア等から、生活の質が向上できる様な作成に努めている。	モニタリングを半年に一度行い、状況の把握に努めている。これに応じて、計画も具体的に何をするかを掲げている。最初に立てた計画は、職員が感じたことを赤ペンで追記することで、計画立案に、全職員が関わっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・介護経過記録や個別ケア、日々の生活の中での職員間の情報の共有に努め、プランに活かせる様にしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・その時々状況に応じた柔軟な対応に心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・ボランティアやご家族、馴染みの方々との関係が築けるようにと思っているが、コロナ禍の為、支援が困難である。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・個々にかかりつけ医があり、月1回定期的に往診を受けている。Drとの連携を図る様に心がけている。	医師が月に1度往診され、非常に親切かつ確に診てもらっている。要望にも、24時間対応していただいている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	・事業所内の看護職員による週1回の健康チェックをしてもらっている。個々の状態や相談等の細やかな連携に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	・ご家族を交え相談に努めている。入院時には情報の提供を行い、入院中の状態や退院時の情報提供をしてもらっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・重度化された場合は対応しきれない部分がある為、入所前説明により理解をもらっている。直面した場合は、ご家族、関係者と共に最善の方法に取り組む様にしていきたい。	状態の悪化に伴い、医師の診断において、病院での支援に繋がっていることから、GH内での看取り支援名は、まだまだであるが、経験を積んだ職員もいるので、職員同士が、介護について、何でも話せる関係も築けている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・マニュアルに沿っての対応をしている。緊急時研修を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・BCP策定委員会にて対策を行っている。全体会議にて防災研修をし、年2回総合訓練をしている。	備蓄食料は、3日分保管できており、日用品においては、10日分以上が確保できている。避難訓練では、以前は消防署も来られていたが、新型コロナウイルスの影響から来られていない。停電時には、発電機をすぐに借りるように手配している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・尊厳を重んじプライバシーを大切に支援に努めている。全体会議においてプライバシー研修を行っている。接遇を意識してご利用者に関わっている。	品質目標にも掲げている「接遇」を合言葉として、チェック表を活用して、職員間でも声を掛け合いながら介護にあたっている。利用者の方を「人生の先輩」として、関わることを意識している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・押しつけの支援にならない様に、ご利用者の思いを大切にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・ご利用者のペースに合わせた希望に添った対応に努める様に心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・着る洋服を一緒に準備したり等の関わりを持ちながら努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・好みの献立や食べやすく調理する等、配慮をしながら調理にあたっている。	イベント時には、利用者の方と一緒に、おはぎやホットケーキなどの調理を行っている。また誕生日には、ちらし寿司が食べたい等のリクエストに応えた食事を提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・毎日の食事量、水分量が確保できる様支援を行っている。施設内の管理栄養士による訪問、栄養ケア会議で栄養管理をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・毎食後の声かけにて口腔の清潔に努めている。ご利用者の状態により介助をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	・排泄チェック表にて確認をしながら、声かけを行いご利用者に応じた支援をしている。	排泄は自力で行えるが、便器に座る、立位に移ることが難しい利用者が居られるため、チェック表を用いて支援を行っている。唯一の男性利用者は、立位で排泄することもできている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・水分摂取や食事、身体を動かす等に気をつけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	・午後からの入浴になるが、ご利用者の要望に合わせた入浴を行うように努めている。	入浴支援は毎日行っている。入浴が楽しい会話に繋がることも多く、信頼関係を築く機会にもなっている。お風呂場も清潔感があり、安心して入浴ができる体制が出来ている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・ご利用者のその日の状態や習慣を考慮して上で休息をしてもらっている。環境作りや声かけにて安心して休んでもらえる様努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・確実に薬の服薬ができる様に支援をしている。状態に変化があった場合は担当医に連絡をし、指示をあおいでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・ご利用者一人ひとりの好きな事の把握をし、希望に応じた支援を行っている。こちらからも提案しながら、楽しみ、気分転換を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・散歩・ドライブ等の要望に応え出かけられる様に努めている。花見や紅葉狩りの頃は少し遠出をして楽しんでもらっている。	その日の天気やご本人の様子を見て、散歩などの活動に繋げることができている。出かけた際には「気持ちいい」と高揚した声が聞こえている。新庄村へ花見に行った時には、爽やかな空気の中、全員が参加することができた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・お金の管理はできる方がおらず、こちらで管理をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	・その都度対応できる様に努めている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・過ごしやすい空間作りを心がけている。整理・整頓に努め、安心して心安らげる様にしていきたい。	事業所内の清潔を保つだけでなく、室温にも気を配りながら、利用者に生活していただいている。共有場所に置かれた柔らかいソファを好まれる利用者も多く、環状に配置していることから、集まり易い空間になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・共有スペースのソファ席の座る位置等気の合う人と過ごせる様に配慮している。ゆっくり過ごせる場所の提供をしたいが、スペースが狭いので工夫していきたい。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・使い慣れたものや個々の希望の物等で、居心地の良い居室作りに努めている。	持ち込まれたテレビ等の配置は、利用者の意向を確認しながら、セッティングしている。使い慣れた家具を使っていただくことで、親しみやすい環境を作られていた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・安全な環境作りの為、改善箇所等があれば提案し改善や工夫をしている。ご利用者に安全に自立した生活を送ってもらえる様にしていきたい。		